

熊本地震から考える高齢者と避難所の問題解決策

Joint Kumamoto Dreamers (JKD)

背景

2016年4月に発生した熊本地震

●避難所のキャパシティ

学校のグラウンドや駐車場にブルーシートを敷いて一夜を明かすことになった避難者が発生

益城町(4月17日14時30分時点)

避難者	避難所の数	避難所1箇所あたりの避難者数
16050人	16	1000人以上

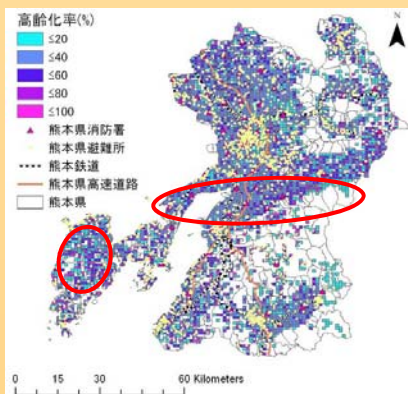


事前復興政策の策定にあたり、熊本県における避難所、支援物資拠点の分布を確認することが必要

解決したい課題

- ①災害弱者となる可能性の高い高齢者の住居の位置と避難所の近接性の問題→高齢者の視点に立った避難所の最適配置
- ②物資を迅速かつ的確にすべての人に行き届ける、支援物資拠点の配置→高齢者の視点に立った支援物資拠点の最適配置
- ③熊本地震に起因する災害危険度の金銭的評価

① 高齢率と避難所分布

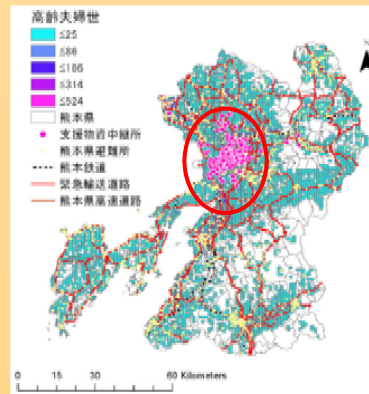


宇城市・美里町・山都町や天草地方の内陸部が高齢化率の高さに対して相対的に避難所が少ない

提言①

事前復興政策として宇城市・美里町・山都町や天草地方の内陸部に優先的に避難所を設置するべきである

② 高齢夫婦世帯数と支援物資中継所分布



物資拠点は熊本市に集中の強度が高い

提言②

事前復興政策として県南部や天草地方に備蓄倉庫などの物資拠点を増強するべきである(併せて支援物資品目の分配ウェイトについても各地域の人口特性に応じた配分が必要である)

③ 災害危険度の金銭的評価

DIDを用いたヘドニックアプローチにより、災害危険度を金銭的評価した結果、相対的にマグニチュードの大きい危険度の高い地点の公示地価は危険度の低い地点に比べると0.0846%地価ベースで低い。また避難所からの距離が遠くなるほど地価が減少、すなわち危険度が高まる可能性があることも確認された。

提言③

これらの地区は先述の避難所および支援物資中継所を優先的に整備するなど、防災・減災のための事前復興政策の策定が必要となる。また、震災を風化させないためにもこれらの地区に新しい熊本のシンボルとなるような防災施設を作るべきである。

期待される効果

避難所に関する提言①→居住者特性に即した避難所の配置が実現



今後の熊本県の巨大な自然災害に対する事前復興政策として効果を発揮すると期待できる

物資拠点に関する提言②→支援物資拠点の分布の不均一性が解消

地震危険度の推定に関する提言③→危険度の高い地域の特性を確認



危険度に即した避難所立地政策として効果が期待できる